

史  
村  
さん  
り  
63  
恩  
納  
さ  
よ  
編  
だ

## 戦後恩納村の流弾事件

### ～安富祖流弾事件から一年半～

2017年4月18日の地元紙の一面を「流弾、ゲートから100m／タンク、車に4ヶ所痕跡 恩納・安富祖」というショッキングな記事が占めました。事件から一年半たった現在もお米軍演習場では訓練が続けられ、銃声が響いています。戦後、村民のくらしに重大な影響を及ぼす基地から生み出された被害について振り返ります。

#### 〈演習場接収〉

戦後、荒廃した地域の復興、住宅再建が必要となった木材を切り出し、日々の生活物資としての薪を採る作業で、多くの住民が恩納岳に入りました。「まだフェンスもなかったから、山仕事で毎日、薪を取りに行ったよ。毎日、米軍の銃声が聞こえる方向を見極めて、音がしない反対側で作業してたよ」というたいへん危険な状態で当時恩納岳に入った方の証言も残っています。こうした戦後の建て直しを図る中、1950年4月に恩納岳を中心とする村有地が軍用地に接収されます。戦後の産業復興として恩納区では恩納岳ふもとの肥沃な大地にお茶が植えられ、茶園が広がっていました。1960年2月11日米軍の演習により山火事が発生し、この火災により茶園も大きな被害をうけ廃園になってしまいました。

#### 〈繰り返される事件〉

1966年10月27日、南恩納区の住宅の台所への流弾事件が起きました。幸いなことにけが人はありませんでしたが、重大な事件として米国民政府、警察に連絡し、現場状況の確認を行いました。1957年からこの事件までに40件に及ぶ事件が発生してしまいました。こうした度重なる事件に対し

#### 抗議文（要約）

昭和41年10月27日午後9時30分、南恩納、佐渡山安政氏宅地内に発生した演習地からの流弾不祥事件は、私達恩納村民にとって、誠に重大な問題である。昭和32年以降、今日まで、40件に及ぶ流弾事件の発生に見まわれ、村民は恐怖と不安の連続に、大きな人権問題、社会問題として村民はもとより、世論は絶対これを許さないであろう。流弾事件も単に補償すればよいということではない。今後いかなる理由にせよ、このような事件が発生しないよう厳重に抗議するため流弾事故抗議恩納村民大会を南恩納公民館前広場で開催する。

#### 要請決議

- (1) 銃砲撃の目標を変更すること。
- (2) 射撃場を移動すること。
- (3) 防止対策の内容について、詳細に知らすこと。

#### 〈全容解明できない事件〉

抗議大会から50年あまりたった2017年4月、冒頭で述べた人命に関わる重大な事件が安富祖で発生しました。キャンプハンセン内の安富祖ダム建設工事現場で車両と水タンクが破損し、付近で銃弾らしきものが発見されました。現場は基地境界のゲートから水タンクまで約100m、工事車両まで約300m、安富祖集落からは約400mしか離れていませんでした。村議会では全容解明へ向け、米軍からの状況報告を強く求め、昨年11月に米軍からの報告をうけました。事件発生直後には「現場周辺演習で使用している銃弾ではない」（米軍訓練施設管理事務所）との報告があったものの、弾丸は長射程のもので、海兵隊員が長距離射撃訓練で使用するものと同じことがわかりました。米軍に対して、予防策の報告、基地への立ち入り

て、戦後初めての流弾事件抗議村民大会を南恩納の現地で開催しました。



流弾事故抗議恩納村民大会（1966年 南恩納）